

福山大学 工学部 スマートシステム学科 2020年度 自己点検・評価書

基準1. 理念・目的

領域: 使命・目的、教育目的

2020年度

工学部 スマートシステム学科

中長期計画	「自立した21世紀型人材の育成」を学科の使命・目的に据え、それを下支えする資格の取得支援を「電気工学コース」と「電子システムコース」の2コース制を導入することにより強化していく。カリキュラムの変更を理解し易いカリキュラム・マップに図式化し、進化させ続けることで、使命・目的・教育目的と学修内容の相関を分かり易くする努力を継続する。また使命・目的・教育目標を公表する機会を有効に活用し、学科構成員だけでなく社会一般にも理解されるよう、他大学や自治体、教育委員会、企業、地域、住民、学校・学生等との連携をさらに深化させ、かつ、広報手法にも工夫を凝らしていく。
--------------	---

2020年度

工学部 スマートシステム学科

中点検項目	1-1. 大学、学部、学科、研究センター及び委員会等は、それぞれの使命・目的及び教育目的を設定していますか。
点検項目	① その意味・内容は具体的かつ明確ですか。
現状説明	大学全体の建学の理念「全人格陶冶」を礎にして、当学科の使命、目的を掲げており、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーにより具体的かつ明確に示している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧2020
点検項目	② 個性・特色を明示していますか。
現状説明	電気・電子系の学科であることを電気工学コースと電子システムコースの2コース制により明示している。また、各コースにおいて特色ある資格取得を強く支援していることの明示している。
年度目標	学生便覧、HP等様々な手段により、広く公表する。
年度報告	学生便覧、HP等で広く公表した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧、②HP
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 社会の要請や背景の変化について検討していますか。
現状説明	産業界からの求人要望が高いにも関わらず、高校生の志願の少ない状況を分析し、志願増に向けた対応策を検討している。
年度目標	短期と中長期両者の対策を立案し、実行する。
年度報告	2コース制、電気主任技術者資格取得を前面に押し出した周知活動を展開した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学長室ブログ、②オープンキャンパス動画
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

工学部 スマートシステム学科

中点検項目	1-2. 使命・目的及び教育目的の反映
点検項目	① 使命・目的及び教育目的に対し、教職員の理解と支持は得られていますか。
現状説明	教室会議において周知、議論を行い、教職員の理解と支持を得ている。
年度目標	現状を維持
年度報告	教室会議内でFDを実施し、周知、議論を行った。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①教室会議(FD)議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学内外へ公表し、周知していますか。
現状説明	学生便覧により教育目的を公表している。また、オープンキャンパス、出張講義での学外への周知、学科HPによる学内外への周知を図っている。
年度目標	現状を維持

年度報告	学生便覧にて教育目的を公表した。また、オープンキャンパス、出張講義での学外への周知、学科HPによる学内外への周知を行った。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧2020、②オープンキャンパス動画、③学科HP
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 中長期的計画に反映していますか。
現状説明	学科の使命・目的を十分に吟味した上で、中長期計画へ反映させている。
年度目標	使命・目的を継続して吟味し、必要があれば中長期計画へ反映させる。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①教室会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 三つのポリシーに反映していますか。
現状説明	定期的な検証を行っている。資格取得支援を目的とした2コース制の導入に伴い、カリキュラムポリシーの見直しを実施している。
年度目標	継続して定期的な検証を実施する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学科HP 3つのポリシー
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教育研究組織の構成との整合性は取れていますか。
現状説明	2コース制の導入に伴うカリキュラムポリシーの見直しに際し、教育研究組織の構成との整合性を確認している。
年度目標	継続して整合性を検証していく。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①教室会議議事録
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

工学部 スマートシステム学科

基準2. 学生

領域: 学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応

2020年度

工学部 スマートシステム学科

中長期計画	<p>定員充足率の向上を最重要課題と位置付け、短中長期の全ての施策を実施効果を吟味の上実行する。幅広い学生の受け入れを目的としてコース制を導入し、電子工学を主軸とするスマートな技術を「電子システムコース」として維持しつつ、「電気工学コース」にて地域企業からの要望の高い電気主任技術者の資格取得を目指す。スマートシステムを具現化した成果物にできるだけ触れてもらう機会を作ってゆく。起業して活躍中のOBを客員教授として迎えており、本学科は地域に新たな産業を興す企業家を育てることもできることを伝える。スマートをキーワードに女子学生の確保も努力する。また、中期的な観点から入学生の増加に効を奏しているのが、小中高等学校との連携事業であり、この事業を継続する。</p> <p>学生の学修、生活、就職の支援に関してはきめ細かな対応を実施している状況であるが、より丁寧に学生の意見に耳を傾け、各支援の質の向上を行っていく。</p>
-------	---

2020年度

工学部 スマートシステム学科

中点検項目	2-1. 学生の受入れ
点検項目	① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と学内外への周知を行っていますか。
現状説明	大学全体のアドミッションポリシーと照らし合わせて学科アドミッションポリシーを見直している。学生便覧、オープンキャンパス、学科HPを通じて学内外に周知を行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A

改善課題	
根拠資料	①学生便覧2019、②オープンキャンパス動画、③学科HP (Facebook)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れていることを検証し、学生受入れの改善に生かしていますか。
現状説明	学生アンケートを実施し、学科内で検証・共有して受け入れの改善に反映している。
年度目標	現状を維持
年度報告	新型コロナウイルス感染症による混乱の中、例年入学当初に行っている新入生アンケートを実施できなかった。
達成度	B
改善課題	新入生アンケートの未実施
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	新入生アンケートを着実に実施する。
点検項目	③ 入学生受入れ状況を昨年度及び今年度について検証し、その増減の原因を分析していますか。
現状説明	教室会議にて受入れ状況を検証し、分析を行っている。
年度目標	継続して実施し、分析結果を受け入れに反映していく。
年度報告	新型コロナウイルス感染症による混乱の中、例年入学当初に行っている新入生アンケートを実施できなかった。
達成度	B
改善課題	新入生アンケートの未実施
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	新入生アンケートを着実に実施する。
点検項目	④ 入学定員に沿った適切な学生受入数を維持できていますか。できていない場合、どのような対策を実施していますか。
現状説明	2020年度は定員充足率90%となった。定員の削減の効果も大きいですが、絶対数も増加している。
年度目標	入学者増の要因を新入生アンケート等で検討し、今後の更なる入学者増につなげる。
年度報告	電気主任技術者認定校の必須実験設備導入推進とその整備状況を公表し、志願者増に向けた活動を行った。新型コロナウイルス感染症による混乱の中、例年入学当初に行っている新入生アンケートを実施できなかった。
達成度	B
改善課題	新入生アンケートの未実施
根拠資料	①教室会議議事録、②学長室ブログ、③学科HP
次年度の課題と改善の方策	新入生アンケートを着実に実施する。

2020年度

工学部 スマートシステム学科

中点検項目	2-2. 学修支援
点検項目	① 学修体制の整備のため、どのような教員と職員等の間でどのような協働をしていますか。また、それを学内外に公表し周知していますか。
現状説明	履修に関して教務課、学生の生活等に関しては学生課、就業に関しては就職課の職員等と委員会を通じ、また必要に応じ個別に情報を共有し、教室会議における各委員会報告等で学科内に周知している。委員会名簿は学内に公表されている。
年度目標	協働に関しては現状を維持し、必要な事案の発生時に学外公表等検討する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①教室会議議事録、②委員会名簿
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学修支援の充実のために、TA(Teaching Assistant)等を有効に活用していますか。
現状説明	TAを導入し、学修支援を行っている。
年度目標	継続して有効なTAの活用を行う。
年度報告	TAを計画したが、新型コロナの影響で実施できなかった。
達成度	B
改善課題	TAの未実施
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	次年度もTAを予算化しており、着実に実施する。

中点検項目	2-3. キャリア支援
点検項目	① 教育課程内外を通じて社会的・職業的自立に関するキャリア形成支援体制を整備していますか。
現状説明	キャリア形成支援委員会、就職委員会を中心に教員が連携してプリント、口頭説明、ゼルコバ等で就職ガイダンス、BINGO OPEN INTERNSHIPへの参加を呼び掛ける体制としている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①教室会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 卒業生の進路に関する過去3年間にわたる資料を収集し、検証していますか。
現状説明	過去の卒業生の進路を記録しており、進路指導に活用している。
年度目標	キャリア支援の進路への効果について継続して検証していく。
年度報告	継続して進路を記録しており、就職先の企業からの情報により検証を行っている。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①各年度就職状況一覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 資格取得やインターンシップを支援する体制を整備していますか。
現状説明	学年担任、キャリア形成支援委員、就職委員により資格取得、インターンシップ参加を支援する体制としている。
年度目標	インターンシップ参加を積極的に支援していく。また、電気主任技術者資格取得のための支援部材と奨励金を整備する。
年度報告	教室会議、Cerezoにてインターンシップの学生への周知を徹底した。電気主任技術者資格取得のための支援予算を確保した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①教室会議議事録、②令和3年度工学部予算要求書、③Cerezo
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 就職指導を適切に行い、就職の質及び内定率の向上に取り組んでいますか。
現状説明	14年連続で100%の就職率となった。また、大手企業への就職も増えており、適切な就職指導を行っている。
年度目標	さらなる質の向上を目指す。
年度報告	本年度も100%の就職率となった。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①就職活動一覧
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目	2-4. 学生サービス
点検項目	① 学生生活の継続のための経済的支援は実施されていますか。
現状説明	SAにより経済的支援を行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	コロナ禍の影響によりSAが実施できなかった。
達成度	B
改善課題	次年度も計画している。
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	SAを実施する。
点検項目	② 種々のハラスメントの発生防止に取り組んでいますか。
現状説明	ハラスメント相談委員だけでなく、毎週の教室会議にて学生の動向を確認し、相談記録を必要に応じ作成している。
年度目標	継続しハラスメント発生防止に取り組む。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A

改善課題	
根拠資料	①教室会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑧ 課外活動(サークル活動、留学等の国際交流、社会貢献活動を含む)の活性化のために、どのような取組みを行っていますか。
現状説明	じばさんフェアや夏休みものづくりフェスタ、地元企業との研究等社会貢献活動に学生を参加させている。また、学生に留学を推奨している。
年度目標	より多くの学生が国際交流や社会貢献活動に参加するよう指導を行う。
年度報告	コロナ禍の中、多くのイベントが不開催となったが、企業との共同研究等社会貢献活動に学生を参加させた。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①令和2年度卒業論文
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

工学部 スマートシステム学科

中点検項目	2-5. 学修環境の整備
点検項目	① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理をどのように実施していますか。
現状説明	学科の研究実験エリアの有効な活用を教室会議における教員間の協議で進めている。
年度目標	継続して、整理整頓、安全対策を行っていく。
年度報告	現状を維持した。次年度の廃却予算を申請した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①令和3年度予算要求書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② ICT教室、実習・実験施設、図書館等を活用していますか。
現状説明	工学部と連動してICT教室をリニューアルした。また、図書館行事への参加呼びかけ等の利用推進活動を行っている。
年度目標	継続してICT教室、図書館の活用推進を行っていく。また、実験施設の整備を行っていく。
年度報告	ICT室の活用について学科での協議に基づき実施した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①教室会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 施設・整備のバリアフリー化やアメニティスペースの確保など、学生の利便性を高めるために、どのように取組んでいますか。
現状説明	工学部新棟はバリアフリー化が確保されているが、30号館はバリアフリー化はされていない。学科が利用する施設の整理整頓を呼びかけ整備状況を教室会議にて確認している。
年度目標	整理整頓を徹底する。30号館のバリアフリー化を検討していく。
年度報告	30号館のバリアフリー化は先送りとし、状況を見て再検討とする。
達成度	B
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	バリアフリー化は状況を見て検討する。
点検項目	④ 授業を行う学生数等を考慮した適切な施設・設備上の管理をしていますか。
現状説明	施設は学生の数を考慮したものとなっている。課題発生時は教室会議にて審議して対処するようにしている。
年度目標	継続して学生数を考慮しながらソフトウェアライセンス更新やプリンターの保守計画の策定、実験設備の検証を実施する。
年度報告	ライセンス更新、保守計画を作成し、予算化した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①令和3年度予算要求書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 施設・設備の管理において、防災・防火の観点から整備点検を行っていますか。
現状説明	災害時の避難計画について教室会議にて協議しているが、防災・防火の観点からの整備点検は行わなかった。

年度目標	防災・防火の観点からの整備点検を実施する。
年度報告	避難訓練に関し教室会議にて情報を共有したが、防災・防火の観点からの整備点検は行わなかった。
達成度	B
改善課題	防災・防火の観点からの整備点検の実施
根拠資料	①教室会議議事録
次年度の課題と改善の方策	防災・防火の観点からの整備点検を実施する。
点検項目	⑥ 施設内に保管している劇物・危険物の管理において、安全管理の観点から管理システムを整備していますか。
現状説明	ガスボンベに関しては適切な転倒防止措置済みであり、その他劇物等は保有していないため、管理システムは構築していない。
年度目標	劇物等の導入時にシステム構築を行う。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①工学部・大学の危険物リスト
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑦ 学生及び教職員の安全確保のために、各部署に適切な安全管理教育の実施、災害時避難マニュアルの作成及び防災訓練等を実施していますか。
現状説明	全学の安全マニュアルが整備されており、年度初めのオリエンテーションで安全教育と啓発を実施している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①平成30年度新入生オリエンテーションのしおり、②全学安全管理マニュアル
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

工学部 スマートシステム学科

中点検項目	2-6. 学生の意見・要望への対応
点検項目	① 学修支援に関する学生の意見・要望を把握する体制や、その分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	授業評価アンケート、共通教育アンケート、卒業生アンケートの結果を教室会議にて評価・分析する体制を学科内規に明記し実行している。
年度目標	継続して実施し、問題のある場合には体制を含め改善を行う。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①教室会議議事録、②学科内規
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望を把握する体制や、その分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	毎週の教室会議にて学生の動向の確認を取り合い、全教員で常に学科の全学生に目を向ける体制としている。
年度目標	継続して体制を維持し、学生の心身、学生生活へのケアを行っていく。
年度報告	教室会議他で連絡を取り合い、教員全体で目を向ける体制を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①教室会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 学修環境に関する学生の意見・要望を把握する体制や、その分析と検討結果を活用する体制が整備されていますか。
現状説明	授業評価アンケート、共通教育アンケート、卒業生アンケートの結果を教室会議にて評価・分析する体制を学科内規に明記している。
年度目標	継続して、内規に添い意見・要望の把握、分析と検討結果の活用を行う。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A

改善課題	
根拠資料	①教室会議議事録
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

工学部 スマートシステム学科

基準3. 教育課程

領域: 卒業認定、教育課程、学修成果

2020年度

工学部 スマートシステム学科

中長期計画	アセスメント・ポリシーを活用してディプロマ・ポリシー、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの妥当性を毎年検証し、学内外に周知していくと共に、単位認定、卒業等の厳正な認定を行っていく。
-------	---

2020年度

工学部 スマートシステム学科

中点検項目	3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定
点検項目	① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーは、学内外に周知されていますか。
現状説明	学生案内、オープンキャンパス、出張講義での周知の努力の他、一般（高校生、受入企業）に分かりやすいDP（資質）の表現として、学科リーフレットを作成している。さらに、内外への周知のため、HPへのディプロマ・ポリシーの掲載、オリエンテーションによる学生への周知を行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学科リーフレット ②令和2年度 新入生オリエンテーション資料
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準（ルーブリック等の評価指標を含む）等の策定はどのように行われ、学内外に周知していますか。
現状説明	ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等は、まず学科長と教務委員を中心として検討し、学科会議の議を経て決定している。また、学生便覧や大学HPへの記載により学内外に周知している。卒業研究に対するルーブリック評価も学科教員による合議により制定している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①教室会議議事録、②教務の手引き、③シラバス、④学生便覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等を公表し、厳正に適用されていますか。
現状説明	基準については、シラバスを学内外に対してWebで公開している。また、実験、卒業研究に対するルーブリック評価を厳正に実施しておりCerezoにて学生に公表している。実際の運用については、学科、学部で審議し、全学教授会で承認を受けており、厳正に運用している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①シラバス ②スマートシステム基礎実験・応用実験ルーブリック ③卒業論文発表会ルーブリック
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

工学部 スマートシステム学科

中点検項目	3-2. 教育課程及び教授方法
点検項目	① カリキュラム・ポリシーを策定し、学内外に周知していますか。
現状説明	カリキュラムポリシーを策定し、学生便覧、HP、オープンキャンパスにて学内外に周知している。
年度目標	継続してカリキュラムポリシーの変更により導入した2コース制を学内外に周知する。
年度報告	2コース制の導入を、学生便覧、HP、オープンキャンパス等で学内外に周知した。

達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧2020、②学科HP (Facebook) 、③オープンキャンパス動画
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの間に一貫性がありますか。
現状説明	学科教員によるワークショップにてディプロマ・ポリシーに基づくカリキュラム・ポリシーの策定を実施しており、一貫性を確保している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧2020
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を体系的に編成していますか。
現状説明	カリキュラム・ポリシー変更に伴い、2コース制を導入した教育課程の見直しを体系的に行っている。
年度目標	実施に向け準備を行う。
年度報告	実施に向け予算申請処置を行った。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①令和3年度予算要求書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 教養教育は専門教育とともに十分に実施されていますか。
現状説明	学科教育における教養教育科目の位置づけを確認し、カリキュラムマップで明示している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧2020、②Fukuyama University Guide Book 2020
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教授方法を工夫・開発(ICTの活用を含む)し、効果的に実施していますか。
現状説明	教室会議で情報交換を行い、アクティブ・ラーニング、ICTの活用等効果的な実施を心掛けている。
年度目標	現状を維持
年度報告	教室会議内で情報交換を行った。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①教室会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ディプロマ・ポリシーと卒業判定の整合性を考えていますか。
現状説明	卒業判定基準や卒論の判定ルーブリックは学科のディプロマ・ポリシーに基づいて作成しており、整合性を十分に考えている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生要覧2020、②卒業論文発表ルーブリック
次年度の課題と改善の方策	
2020年度	
工学部 スマートシステム学科	
中点検項目	3-3. 学修成果の点検・評価
点検項目	① 全学及び各学科等のアセスメント・ポリシーの活用も含め、三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用をどのように検証していますか。
現状説明	成績分布、GPA分布、単位取得状況、進級状況、アセスメント・ポリシーなど学生の各種状況を、教室会議における情報共有で全員で把握し、改善方法を検討している。
年度目標	現状を維持

年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①教室会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバックは、どのように実施されていますか。学修成果の点検・評価結果を教育内容・方法及び学修指導等の改善につなげていますか。
現状説明	授業評価アンケート結果を共有し教室会議にて対応を議論している。アセスメント・ポリシーに基づく学科教育プログラム評価を教室会議で実施している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①教室会議議事録
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

工学部 スマートシステム学科

基準4. 教員・職員**領域: 教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援**

2020年度

工学部 スマートシステム学科

中長期計画	教学IRのデータを活かして教員配置や研究支援を進める教学マネジメント体制を確立する。スマートシステムの基盤技術である、IoTに精通した若手研究者の採用をつねに視野に入れ、女性教員の採用も試みる。
-------	---

2020年度

工学部 スマートシステム学科

中点検項目	4-1. 教学マネジメントの機能性
点検項目	① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップが確立され、それが発揮されていますか。当該部署の長は当該部署の教学マネジメントにおいて適切にリーダーシップを発揮していますか。
現状説明	学長のリーダーシップは評議会、工学部教授会、学科長等連絡会議により伝達しており、適切に発揮されている。また、学科長は教室会議等により適切なリーダーシップが発揮できる体制となっている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①工学部教授会資料、②教室会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 当該部署では、教職員間で権限・役割を適切に分散し、かつそれぞれの責任を明確化した教学マネジメントを実施していますか。
現状説明	年度の切り替わり時点で委員を見直して適正化し、責任を明確化した業務分担を行うようにしている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①令和2年度 福山大学諸委員会構成員名簿
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 職員の配置と役割の明確化などにより、教学マネジメントの機能性を高めていますか。
現状説明	学生課、教務課、就職課の職員スタッフと連携して学科運営を行っている。助手の配置と役割は、内規などで明確化し、教学マネジメントの機能を高めている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学工学部スマートシステム学科内規

次年度の課題と改善の方策	
2020年度	工学部 スマートシステム学科
中点検項目	4-2. 教員の配置・職能開発等
点検項目	① 当該部署の教育目的及び教育課程に即した資質を有する教員を配置していますか。また、当該部署の適切な運営及び継続性を担保する構成(性別、年齢、職階等)となっていますか。
現状説明	科目、専門を明らかにして教員募集をしており、採用に当たっては充分な吟味を行っている。また、教員による自己評価を実施し確認している。年齢構成についても適切に整備されているが、性別については不十分である。
年度目標	教員構成が設置基準を満たしているため、非常勤の女性講師の採用を検討する。
年度報告	女性講師の募集には至らなかった。
達成度	B
改善課題	継続して募集を検討する。
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	継続して募集を検討する。
点検項目	② 大学設置基準、教職課程等の資格養成機関に求められる教員数を確保していますか。
現状説明	確保している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①工学部 研究者一覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ FD(Faculty Development; 教育内容・方法等の改善)をはじめとする教員の資質向上に向けた取組みを行っていますか。
現状説明	授業評価アンケート結果に対するFD等の学科内FDを実施している他、工学部、工学研究科のFDにより教員の資質向上に努めている。
年度目標	現状を維持に加え、大学電気教員協議会への参加により得られた情報をFDにより学科内に展開する。
年度報告	FDを実施した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①教室会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
2020年度	工学部 スマートシステム学科
中点検項目	4-3. 職員の研修
点検項目	① SD(Staff Development; 教職員の個々の職能開発)をはじめとする大学運営に関わる教職員の資質・能力向上と教職協働への取組みを実施していますか。
現状説明	学科FDを始め、大学主催、学部主催及び研究科主催のSD・FDに積極的に参加している。
年度目標	現状を維持
年度報告	科研費獲得SDを受講した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①教室会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学運営の効率改善のために ICTの活用を推進していますか。
現状説明	学科のファイルをOffice365のSharepointにて共有化し、業務効率の向上を図っている。また、工学部としてのICT共有化に学科として積極的に協力・推進している。
年度目標	karinの活用、WEB会議の活用を推進する。
年度報告	教室会議議事録等の情報をSharePoint、Karinにて共有化した。また、教室会議をリモート化した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①SharePoint、Karinのスマートシステム学科フォルダ、②教室会議議事録
次年度の課題と改善の方策	

2020年度	工学部 スマートシステム学科
中点検項目	4-4. 研究支援
点検項目	① 研究に専念する時間の確保、研究室の施設設備の整備等の研究環境を適切に管理していますか。
現状説明	研究環境の整理整頓は行っているが、研究専念時間は十分には確保されていない。
年度目標	学部と連携してMATLABその他のソフトウェアの維持・導入などによる業務の効率化を検討するなど、研究専念時間を確保する方策を抽出する。
年度報告	ソフトウェアの導入を行ったが、研究専念時間が十分に確保されたとは言えない。
達成度	B
改善課題	新型コロナウイルスの影響下で通常の状態とは言えず、次年度に継続して取り組むべき課題である。
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	継続して研究専念時間確保に取り組む。
点検項目	② 研究倫理の確立(規則の整備や検査等)と厳正な運用が行われていますか。
現状説明	研究倫理委員会の規定が制定されており、工学部主導にて研究倫理、コンプライアンス研修を行うことで教員への意識付けを行って厳格に運用されるようにしている。
年度目標	現状を維持
年度報告	新入生、院生に関するコンプライアンス教育、研究倫理教育を実施した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①コンプライアンス研理解度テスト、誓約書、②2020年度第1回工学部教授会資料
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 研究活動への資源の配分や運用は適正に行われていますか。
現状説明	前年度の教員評価実績に対応して適正に研究費の配分を行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①専任教員におけるR1年度実績およびR2年度実施目標、令和2年度研究費申請書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 公的研究費の運営・管理(ガイドライン等)が整備され、周知されていますか。
現状説明	全学的取り組みとして研究関連ガイドブック、公的研究費の管理・監督等の体制を整備しており、工学部コンプライアンス教育研修への100%参加することにより周知している。
年度目標	現状を維持
年度報告	研究関連ガイドブックにて周知した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①研究関連ガイドブック
次年度の課題と改善の方策	

2020年度 工学部 スマートシステム学科

基準6. 内部質保証

領域: 組織体制、自己点検・評価、PDCAサイクル

2020年度 工学部 スマートシステム学科

中長期計画	<ul style="list-style-type: none"> ・目標設定型の福山大学教育システムを一層充実させるため、学科・学部に毎年カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・マップに関する点検評価を課すとともに、大学教育センターで全学的視野をもって点検評価する体制を充実させる。 ・教員点検評価システムにルーブリック方式を採用して実施する。 ・大学教育プログラムアセスメントを活用して学科の教育プログラムの点検をおこなう。
-------	--

2020年度 工学部 スマートシステム学科

中点検項目	6-1. 内部質保証の組織体制
点検項目	① 内部質保証のための組織を整備し、責任体制を確立していますか。
現状説明	学科の内部質保証は教室会議にて実施することとしており、各構成員が自己点検し、学科長の責任の下で集約している。
年度目標	着実に実施する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A

改善課題	
根拠資料	①福山大学自己点検評価規定、②福山大学工学部自己点検評価委員会細則、③教室会議議事録
次年度の課題と改善の方策	

2020年度 工学部 スマートシステム学科

中点検項目 6-2. 内部質保証のための自己点検・評価

点検項目	① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価が実施され、その結果を当該部署の教職員が共有していますか。
現状説明	大学の自己点検規定に則って点検・評価を実施している。その結果は、各構成員が自己点検し教室会議にて集約することで全教員が共有している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学自己点検評価規定、②福山大学工学部自己点検評価委員会細則、③教室会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② IR(Institutional Research)等を活用した十分な調査・データの収集と分析を行っていますか。また、その結果を改善に活かしていますか。
現状説明	学科独自のIRとして、新入生アンケートに関する分析、授業評価アンケートに関する分析を行っている。
年度目標	継続してIR情報の活用を推進する。
年度報告	新入生 I C T 関連設定状況アンケート結果を教室会議で共有し活用した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①教室会議議事録
次年度の課題と改善の方策	

2020年度 工学部 スマートシステム学科

中点検項目 6-3. 内部質保証の機能性

点検項目	① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組み(システム)をどのように確立し、その機能性を検証していますか。
現状説明	全学的には全学自己点検評価委員会が、学部においては工学部自己点検評価委員会が設けられ整備されている。学科においてはこれらの内容を受けて内規に基づき教室会議で諮り、学科長主導のもとで改革を進めている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①教室会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 教職員のコンプライアンスを確立するための体制を整備していますか。
現状説明	学部主導にてコンプライアンス研修に全員出席するようにしている。また、理解度テスト結果を管理して再教育も実施する体制としている。
年度目標	現状を維持
年度報告	科研費SDにて研究費の適切な使用についての教育を実施した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①令和2年 科研費獲得等に関する研修会資料
次年度の課題と改善の方策	

2020年度 工学部 スマートシステム学科

基準7. 福山大学ブランディング戦略

領域: 「福山大学ブランディング戦略」の点検・評価 (本学独自基準)

2020年度 工学部 スマートシステム学科

中長期計画	「備後地域の産学官民連携を推進し、地域の教育資源を最大限に活用して人間性を高め、地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会につながる『未来創造人』を育成すること」を、福山大学ブランドとして確立していくため、全学研究プロジェクト「瀬戸内の里山・里海学」を始めとして種々の分野での備後地域の産学官民連携を推進していくと共に、日本で最も「地域との繋がり」を教育現場に取り入れ、地域創生の中核となる全人的に陶冶された技術者の育成を行っていく。
-------	---

2020年度 工学部 スマートシステム学科

中点検項目	7-1. 福山大学ブランディング戦略の推進
点検項目	① 福山大学ブランディング戦略 (ver. 2018) の概略について当該部署の学生及び教職員への周知を進めていますか。
現状説明	教員には全学教授会にて概略の周知がなされており、学生には授業、研究を通じて周知活動を行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①研究実験エリア内展示パネル ②全学教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 福山大学はブランディングを「広告ではなく、社会に貢献する観点から他にはない固有の魅力を引き出して他との差別化を図り、社会から選ばれること」と捉えています。この観点からブランディングにどのように取り組んでいますか。
現状説明	IoT、エンベデッドシステム等の当学科固有で社会的要請の強い技術を魅力として教育研究を通して「安全・安心な地域づくり」に貢献することにより社会から選ばれることを目指し取り組んでいる。この目標に向け、じばさんフェア、夏休みものづくりフェスタ、福山市ふれ愛ランドまつり等100件以上の活動を行っている。
年度目標	効果に基づき取捨選択しつつ活動を維持する。
年度報告	活動を継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度 社会連携活動情報
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 福山大学ブランディング戦略では「備後地域の産学官民連携を推進し、地域の教育資源を最大限に活用して人間性を高め、地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会につながる『未来創造人』を育成すること」を方針としています。当該部署は、この方針の実現にどのように取り組んでいますか。
現状説明	IoT、エンベデッドシステム、モデルベース開発といった社会的要請の高い技術による研究および「瀬戸内の里山・里海学」を推進する研究をアクティブ・ラーニングや卒業研究、個人研究等で実施する事により産学官民連携を推進し、その教育研究により成長した学生が地域における「未来創造人」となることを目指して取り組んでいる。
年度目標	実験機器、計測機器を整備して活動を継続し、産学官民連携を更に推進する。
年度報告	「瀬戸内の里山・里海学」を推進する研究を卒業研究、個人研究で取り組んだ。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①卒業論文 ②スマートシステム学科Facebook
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 福山大学ブランディング戦略では、福山大学が備後地域の知の拠点として地域と共に育ち、地域創生に貢献することを目指しています。この目標の実現に向けて、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	モデルベース開発を中心とした先端的なものづくり技術の知の拠点とし、マツダ等と連携して、ひろしま産業振興機構の研修会に協力することで地域の産業力向上を目指している。また、福山市ものづくり大学への積極的な参画も実施している。「瀬戸内の里山・里海学」を推進する藻場探査にて研究成果を積み上げ、智の拠点としてのブランディング確立
年度目標	現状を維持
年度報告	継続して、モデルベース関連の研修会に協力した。「瀬戸内の里山・里海学」を推進する藻場探査にて研究を推進した。
達成度	S
改善課題	

根拠資料	①2020年度 社会連携活動情報、 ②研究成果発表集
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	⑤ 福山大学ブランディング戦略では、建学の理念に基づき、「地域の中核となる幅広い職業人」を、育成する人材像としています。そのために、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	技術者倫理等の人格形成から最先端までの教育により、「地域の中核となる幅広い職業人」を育成することを目標として取り組んでおり、企業アンケート、アセスメント表、卒業生の就職先を分析することにより検証を行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①全学教授会議事録、②教室会議議事録(就職状況)
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	⑥ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「備後地域との密な連携のもとに進める教育研究」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	卒研究生の参画する里山・里海学に関わる研究、地元企業との共同研究等を実施している。研究成果発表、卒業研究の成果により検証を行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	卒業研究にて里山・里海学に関するテーマを実施した。また、地元の企業との共同研究も継続的に実施している。その成果は卒業研究論文、発表により検証した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①卒業論文 ②2020年度研究成果発表会資料 ③2020年度社会連携活動情報
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	⑦ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「学問にのみ偏重しない全人教育」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	全学共通科目を企画・デザインを担う素養と位置付け、学科のカリキュラムと一体となした知識、技能、態度を網羅したカリキュラム体系となっている。また、市民とのふれあいなど学生のホスピタリティの醸成に寄与する活動に積極的に参加する機会を設けている。適切性は外部認証機関によって評価されており、卒業生の就職先や卒業生アンケートでも
年度目標	現状を維持
年度報告	学科カリキュラム体系を維持したが、市民とのふれあいに関してはコロナ禍の中、十分に実施できず、ホスピタリティの醸成に関する市民の反応による検証は出来なかった。
達成度	B
改善課題	
根拠資料	①学生便覧2019 ②ETロボコン公式サイト ③卒業生アンケート
次年度の課題 と改善の方策	新型コロナウイルス感染症の状況が改善すれば、イベントへの参加を復活する。
点検項目	⑧ 福山ブランディング戦略は、これからも進化させて、さらに発展させる必要があります。ブランディング戦略のブラッシュアップにどのように取り組んでいますか。
現状説明	福山大学ブランディング戦略推進のための研究プロジェクトでは課題申請時点で見直し・ブラッシュアップを行っている。その他地域連携事業等に関しては、教室会議において随時見直しを行っている。
年度目標	継続して見直しを公表していく。
年度報告	体制を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①協働事業契約書 ②教室会議議事録
次年度の課題 と改善の方策	
2020年度 工学部 スマートシステム学科	
中点検項目	7-2. 福山大学ブランディング推進のための研究プロジェクト
点検項目	① 当該部署では全学的に展開しているプロジェクト研究の「瀬戸内の里山・里海学」にどのように取り組んでいますか。

現状説明	安全安心防災教育研究センターの教育研究プロジェクトである「ひと・まち・暮らしプロジェクト」の藻場探査プロジェクトに、分担者として学科教員が参画している。また、同センターのセンター長、副センター長、運営委員に学科教員が参画し、プロジェクト研究の推進に貢献している。
年度目標	継続して教員の研究成果を公表していく。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①安全安心防災教育研究センター活動報告、②研究成果発表集、③福山大学工学部紀要、④福山大学諸委員会構成員名簿
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	㉓ 福山大学ブランディング研究に必要な内部資金及び外部資金をどのように獲得していますか。
現状説明	福山大学ブランディング推進のための研究プロジェクト優先課題1に関しては、私立大学研究ブランディング事業への応募・採択により外部資金を獲得した。他の優先課題に関しては内部の予算に申請し、審査を経て採択となっている。
年度目標	外部資金獲得に向けた活動を継続的に検討をしていく。
年度報告	優先課題②のスマートベッドプロジェクトにて科研費を獲得した。広島テックプランングランプリにて里山を舞台とした研究提案にて資金を獲得した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①科研費内定通知、②広島テックプランターHP、③学長室ブログ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	㉔ 福山大学ブランディング研究の成果をどのように社会に発表していますか。
現状説明	福山大学ブランディング推進のための研究プロジェクトの工学部統括機関である安全安心防災教育研究センターを通じ公表している他、福山大学研究成果発表会、学会発表等を行っている。
年度目標	継続して教員の研究成果を公表していく。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①安全安心防災教育研究センター活動報告、②研究成果発表集、③福山大学工学部紀要
次年度の課題と改善の方策	